

エビデンスに基づく園芸療法の実践：人文科学か自然科学か

園芸療法における実証的、事例的、経験的エビデンス、それぞれの活用

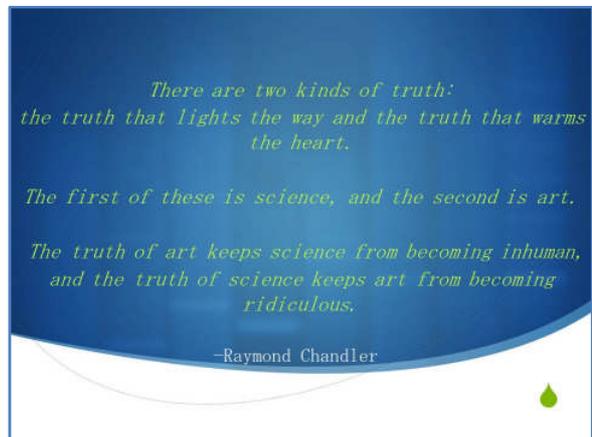
Patty Cassidy パトリシア・キャシディ氏（米国）

アメリカ園芸療法協会理事 / 園芸療法士 / 兵庫県立大学客員教授

本日の発表は主に、40年以上にわたり、いろいろな学生や対象者と活動してきた私自身の経験に基づき、強化されたものです。社会科学の中では、実際に行っていることよりも、もっぱら、より「科学的」であるべきだとする傾向があります。今日、他の多くの分野と同様に園芸療法分野でも、「エビデンスに基づく実践」という、広く知られている、評判の良い言葉が、しばしば「研究に基づく」実践を意味すると解釈され、科学的研究だけが、対象者に高品質で信頼性のあるプログラムを提供する方法を教えてくれるというニュアンスを持っています。しかし、確かに実証的データはとても重要ですが、園芸療法の分野とその対象者についての知識を得る有効な方法はほかにもあると私は考えます。皆さん方と同様に、園芸療法が医療や関連する健康分野の中で尊重され、高く評価される職業になることを私も望んでいます。実践の部分は大切にしたいと思っています。「エビデンスに基づく」実践追求のため、他の種類のエビデンス

スを利用する私のささやかな考えをご紹介しますと思います。

まず、レイモンド・チャンドラー氏の詩をご紹介します。



*There are two kinds of truth:
the truth that lights the way and the truth
that warms the heart.*

*The first of these is science, and the second is
art.*

*The truth of art keeps science from becoming
inhuman, and the truth of science keeps art
from becoming ridiculous.*

-Raymond Chandler

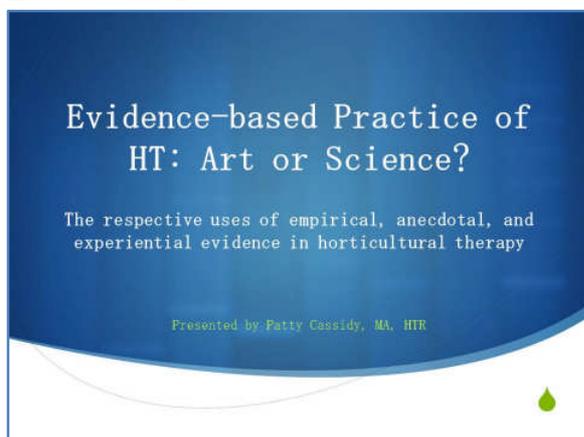
<日本語訳>

2種類の真実がある：

道を照らす真実とところを暖かくする真実

前者が自然科学であり、後者が人文科学である。

人文科学の真実は自然科学が非人間的にならないようにし、自然科学の真実は人文科学がばかげ



たものにならないようにする。

—レイモンド・チャンドラー

この引用は私たちが園芸療法の重要性を伝えていく際、どのようにして数種類の「エビデンス」を利用することができるかについて述べています。そこで、このテーマに関する私の視点をお話します。

My Perspective

- I would stress at the outset that *I am a practitioner, not a researcher.*
- For seven years I've practiced therapeutic horticulture with a variety of people and in different settings, from creating a school garden for abused and neglected children to working with 90-year-old Alzheimer patients in their memory care unit.
- While I do my best to keep up on the latest research and use what I can of it in my practice, I'm also aware of how much I learn from clients, families, and caregivers, and how much I rely on my own intuition and life experiences.
- All of this influences my thinking about what constitutes evidence, and why I think of HT as an art as well as a

私は実践者であり、研究者ではありません。

7年間、虐待された／ネグレクトされた子どもたちのための学校の庭づくりから、メモリー・ケア・ユニットでの90歳のアルツハイマー患者との活動に至るまで、私はいろいろな場所でいろいろな人々と療法的園芸を行ってきました。私は最新の研究に通じ、実践の中でそれを利用するよう努力する一方、対象者や家族、介護者からいかに多くのことを学んでいるか、自分自身の直感力にどれだけ頼っているかにも気づいています。上記のすべてが私の考えに影響しています。つまり、エビデンスを構成しているものは何か、なぜ私は園芸療法を自然科学でもあり、人文科学でもあると考えるのかについてお話ししなければなりません。

エビデンスのタイプの概説について、次のように考えます。エビデンスを構成するものは何でしょうか？

Overview of Evidence Types

◆ What constitutes evidence?

- Empirical
 - Results of research (e.g., randomized clinical trials)
- Anecdotal
 - Input about values and preferences from clients, family, caregivers
- Experiential
 - Accumulated knowledge and intuitions from years of practice and life experiences



エビデンス収集の3つの方法を見てみましょう。一般に、実証的データは無作為臨床試験や研究などから得られ、科学者や研究者は時に、実証的エビデンスが唯一のエビデンスのタイプであると考えることがあります。

実証的方法、つまり研究の結果からエビデンスを組み立てる方法。たとえば、無作為臨床試験などがあります。

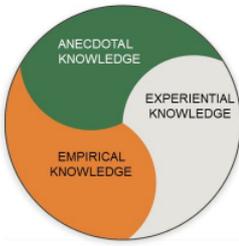
事例的方法、これは、対象者、家族、介護者からの価値観・嗜好に関する情報からエビデンスを出す方法です。

そして、経験的方法。このエビデンスの検証の仕方は長年の実践と人生経験から蓄積された知識と洞察によります。

Overview: Practitioner Expertise

◆ What is practitioner expertise?

- Practitioner expertise is the ability to integrate and apply knowledge, skills, and judgment in the practice of HT.
- Practitioner expertise is more than the demonstration of competencies: it is the ability to fuse multiple kinds of knowledge into a full range of behaviors necessary for effective practice.
- Practitioner expertise is the knack for doing HT skillfully and gracefully, for doing the right thing at the right time.



Practitioner Expertise

科学者と研究者は、時に実証的エビデンスが唯一のエビデンスのタイプであると考えることがありますが、そればかりとは言えないと思います。

3つのタイプのエビデンスが実践者の専門知識にどのように影響を及ぼすかについてお話するにあたり、実践者の専門知識とはどういう意味か考えてみましょう。実践者の専門的知識とは、なんでしょう？

- ◆ 園芸療法の実践において知識、技術、判断を統合し、応用する能力
- ◆ 能力の実証以上のもの: 効果的な実践のためにいろいろな知識を必要な最大限の行動に取り入れる能力
- ◆ 適切なことを適切なタイミングで巧みにかつ優雅に園芸療法を行うためのコツ

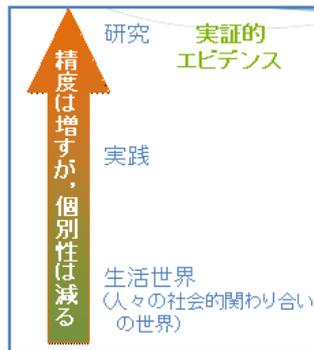
といったものがあります。



まず、実証的エビデンスについてお話しします。この図はエビデンスの種類の違いを考える方向を示しています。「生活世界」とは人々が通常

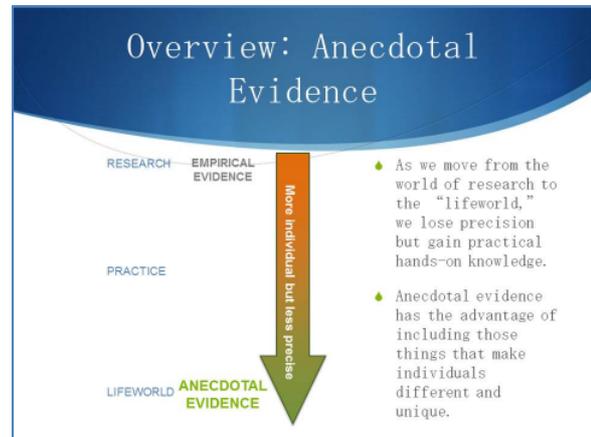
の毎日の活動に参加する際の人々の関わり合いをさし、私の対象者はここに含まれます。

実証的エビデンスは、「生活世界」の乱雑さから正確な研究の世界へと動きます。「コントロール」できるという利点があり、実証的エビデンスはより精度を増すために、影響を及ぼす可能性のある

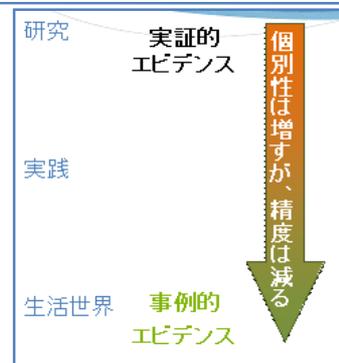


余計な因子（「交絡因子」）を排除することが可能となります。

次に事例的エビデンスを概説します。



コントロールされた実証的エビデンスの世界からその人その人、あるいは生活世界へと動くにつれて、精度は失われますが、



事例的情報という形で実践的知識を得ることができます。これは、私たちが研究の世界から「生活世界」へと動くにつれて、正確さはなくなりますが、実際の・実践的知識が得られるもので、個人のそれぞれ異なる、独特にするものを含むという利点があります。

最後に経験的エビデンスについて概説します。



実証的データと事例的データは重なり合ったり、